

# 全タ協の大学出張講座 「タイル仕上げ実習」 東京都市大学 建築学科で 初めて実施！

(社)全国タイル業協会（全タ協）が重点事業の一つとして建築を学ぶ学生を対象に実施する「大学出張タイル講座」が、東京都市大学で初めて実施された。工学部建築学科の佐藤講師の指導のもと、学部3年生の「建築実験」のカリキュラムとして行なわれた。

講座は、当日午後1時15分よりスタート。初めてのタイル仕上げ実習に参加した学生は、慣れないこて使いで懸命に接着剤・モルタル塗りに挑戦、熱心にタイル施工に取り組んだ。その概要をご紹介します。（編集部）



指導する佐藤講師（右が全タ協・伊藤講師）



タイルの解説をする伊藤講師



建築学科棟外部スペースでの実習風景

指導教員；

佐藤幸恵 講師（建築材料研究）

(社)全国タイル業協会派遣講師；

全タ協 技術顧問・伊藤哲也氏、INAX 建

築技術専門校・古川 豊氏、東 正則氏

出席学生；建築学科3年生 50人

実施日；2011年4月26日（火）午後  
1時15分～5時

教室；東京都市大 世田谷キャンパス

建築学科棟（4号館）外部スペース

テキスト；『タイル手帖』（社）全国タイル  
業協会・発行）

協力；(社)全国タイル業協会

## 【タイル仕上げ実習の内容】

### 1. タイルの紹介〔講師：伊藤氏〕

内装タイル、外装タイル、床タイルの紹介（サイズ、形状、機能、意匠、用途などを学習）。内装用の吸放湿性能、空気の浄化機能をもつ機能性タイル「エコカラット」の紹介。

### 2. タイル張りの概要

『タイル手帖』をテキストにタイルの種類と内外装タイルの施工法の概略説明〔講師：伊藤氏〕

デモンストレーション（施工実演）

〔講師：古川氏・東氏〕

①外装タイル（小口平タイル／50mm  
二丁モザイクタイル）接着剤による施工；  
圧着張り

②外装タイル（小口平タイル）モルタルによる施工；圧着張り／密着張り（ヴィブラート工法）／改良圧着張り／マスク張り

### ③目地詰め

3. 弾性接着剤張り（密着張り）の実習〔指導：伊藤氏・古川氏・東氏〕

いずれもセメント系下地を想定した張付け実習。タイルの割付け図を基にタイルを張る。

●弾性接着剤張り；5mmくし目ごてで接着剤を塗り、くし目を立てる。塗り厚さは3mm程度で均一になるように練習する。塗れたら、小口平タイル、接着剤張り専用タイル（ユニット・裏足なし）を叩き板で叩きながら、墨に合せて張っていく。下地の空きに合せて、見本のタイルも自由に使い、カットしたりして張っていく。

●密着張り；下地側に既調合張付けモルタルを均一に塗り、振動工具（ヴィブラート）により、小口平タイル（裏足あり）を1枚ずつ張りこんでいく。

\*初めてこてをもつ学生がセメントモルタルを均一の厚さに塗るのは難しい作業なので、約900×900mmのモルタル下地板（ラスカット）をコンクリート下地に見立てて練習する。

以上のような作業を10グループに分れて施工実習を行なった（写真参照）。



接着剤の塗り方実演（古川講師）



学生たちのタイル加工実習



学生による接着剤塗りの実習



学生たちのタイル張り実習（密着張り）

## 【タイル仕上げ実習を終えて】

「もっと大胆に斬新なタイルの提案を期待！」

### 東京都市大・佐藤講師のお話から

東京都市大学は2009年に創立80周年を期して武蔵工業大学から校名を変更し、新しい時代の要請に応えられる総合大学として再出発しました。私は2010年に着任し、建築材料の研究・指導をしています。それまで東京理科大学などで非常勤講師をしており、「タイル講座」が実施されているのを知っていましたので、私の担当する「建築実験」のカリキュラム（学部3年生）の中でもやってみたくてお願いしました。

ここでは設計デザインに進む学生が多いので設計の授業に力を注いでいますが、最近は何でもコンピュータ化が進み、リアリティに欠けているように思います。そのため、大学の授業ではもう少し実際にものに触れたり、施工のプロセスを体験することも大切だと考えたからです。実際、学生たちにとってとてもいい経験になったようです。初めはタイルを張るのを見て、簡単そうでも実際にやってみると特にモルタル塗りは思ったようにできず、難しさを実感しながら熱心に受講していました。

### 学生たちのコメントから

（受講後の「建築実験」レポートより抄録）

◆今回の講義は、今まで比較的座学の多かった中での実習という形でとても新鮮でした。タイルについては2年生の「建築材料」の授業で教わりましたが、実際にやってみることで、ただ知っているのと体で理解することの違いを体感しました。講師の方のデモンストレーションは、面白い話を織り交ぜながら、とてもわかりやすいものでした。教科書に載っていないような知識も教えていただき勉強になりました。タイルという素材を実際に触って真剣に張ってみる機会をいただいたことでタイルのデザインに興味がわきましたし、タイルの色と目地の色とがデザインに影響することなど、今まで着目していなかったことを気付かせてもらいました。

◆今回タイル張りをやってみて思ったのは、

講師の伊藤先生のユーモアあふれた話しぶりも学生たちには好評で、タイルの種類やタイル施工に興味をもったようです。タイルはあまりカッコいい建築には使われていないので、ふだんあまり気を留めて見るのがなかったけれども、今回の講座をきっかけにタイルに関心をもって建築を見るようになったという感想もありました。

ある学生は小さい頃、建築現場で見た左官屋さんが壁を塗るシーンをよく覚えていて、今回の講座で鏝（こて）でモルタルを塗る作業をすることができ夢がかなったと喜んでいました。確かに今の学生は建築の実際のプロセスや建築現場に実感がもてないので、大学での実習は実務に通じるような内容を重要視したいと思います。

### 建築におけるタイルの可能性

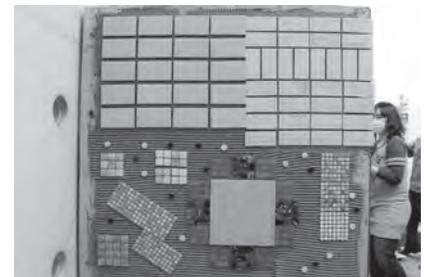
4月に建築材料に関する国際会議がありポルトガル（ポルト市）に行ったんですが、現代建築にタイルがふんだんに使われていて印象的でした。ポルトガルには「アズレージョ」という伝統的なタイル文化が現在も継承され、現代的なコンクリートの打ち放しの建築でも内外装にタイルが用いられていました。もちろん歴史的なアズレージョのような柄のタイ

自分が今までタイルについて何も知らなかったということだ。生活の中で多くのタイルを見ている。けれども、そのタイルがどのようなもので、どのように張りつけられるのか気にしたことはなかった。てっきり簡単に張れるのだと思っていたが、実際やってみて一朝一夕でできるようなものではないと分かった。タイルの見本もたくさんあり、タイルの種類だけ建築の外装をいろいろ考えられる。今後、設計をしたときに壁にどういったタイルを、どういう工法で張っていくのかも考えたい。

◆タイル張り実習を行なう前は、こんなの実習しなくても簡単に出来るだろうと正直甘くみていた。でも見るのとやるのは大違い、本当にその通りだった。普段何気なく見ているタイルがこんなにも張るのが難しかったなんて思いもよらなかった。しかし思いどおり

ルではなく無地のものだったりするんですが、タイルが多用されていました。

やはり建築は仕上材、外装材によるところが大きいと思いますので、私もタイルに関心はありますが、タイルは水廻りなど生活の中の大っぴらにしない部分によく使われている印象が強いですが、もう少し大胆に斬新な発想で建築デザインの新たな可能性に挑戦していけば、もっとタイルが積極的に使われていくようになるのではないのでしょうか。学生は大学の授業の中で実習を伴うものは何年たっても意外とよく覚えているものだと思うので、こうした実習講座もなるべく続けていきたいと思っています。学生が社会に出た後も、そうした体験が生きていくことがあるかもしれませんし、大学における「タイル講座」が普及することによって、タイルの可能性や新たな需要も広がるのではないのでしょうか。（談）



学生たちのタイル張り完成例（接着剤張り）

ならなかったことで、施工実習が終わってもまだ作業したいという気持ちが残りに、知らない間にタイルに強い興味を抱いていた。プロの職人の力を見せてもらうことができ、本当に良い経験をさせてもらったと思う。結果的に泥遊びみたいな感覚で、楽しかったことが一番印象に残っている。

◆私は非常に頑固な人間で、固定観念を取り除くにはかなりの時間を要すると思います。しかし今回、実際にタイルを張って見て、自分の目で見て手で触ることを体験し、自分と違う世界が沢山あることを知り、タイルに興味と親近感が沸いたのは確かです。文字が並んでいる参考書を読むこともいいことかも知れませんが、しかし言葉ではなく行動で学ぶことも大事だと感じました。今後タイルだけでなく、実験で体験することは後に良い経験になるだろうと確信しています。